

暑い夏が終わり、虫の音も季節が変わったことを教えてくれています。太陽が沈む時間も、日に日に早くなり、夜が長くなってきました。読書の秋ですね。2学期も様々な読書活動が始まっています。

◎出前授業

しげ子先生の授業を集中して聴く子どもたち。その後本を紹介しあい、本に対する興味がますます広がったことと思います。最後に「また来年も来てくれますか?」と質問をする子も。子どもたちが出前授業をとても楽しみにしている事が伝わってきます。(写真は川治小)



◎すこやかランド 情報館にて

年に1度、1歳前のお子さんの保護者の方に向け、子どもの成長についての話と、読み聞かせをしています。3歳までの子どもの脳の成長は著しく、周りのものすべてを模倣する特別な時期です。周りの大人も環境の一部であることを理解しなくてはいけません。保護者の方は、いかに大切な時期かを改めて理解されたようで、質問を沢山してくださいました。こうした機会を頂けて嬉しく思います。



◎ブックトーク、読み聞かせプログラム

千手小1年生にブックトークに行きました。途中、クイズを挟んで4冊の本を読み聞かせしました。好奇心旺盛で反応も良く、思い思いに話をしていた子どもたちも、いつしかお話の世界に入り込み、真剣に聴く姿が見られました。「ぜんぶおもしろかった。もう1回よみたい」と書いた感想を笑顔でもって来てくれました。先生方が子どもたちをサポートしつつ、同じ目線で一緒にお話を聞いていらっしゃるお姿が印象的でした。とても穏やかな良い時間でした。

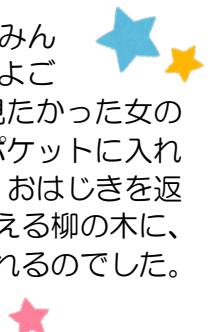


『ふわふわくんと
アルフレッド』
ドロシー・マリノ
/文、絵
石井桃子/訳
岩波書店



◎読み聞かせからの気づき 西小6年生 『星のおはじき』 安房直子

同じクラスのあやちゃんが学校にもってきた、美しい星のおはじきを見たくて、女の子もみんなと同じようにさわろうとします。するとあやちゃんに、「さわらないで！あなたがさわるとよごれるわ」と言われます。静まり返り、凍りついた空気と女の子の心。それでも、どうしても見たかった女の子は、誰もいない時に、ちょっと見せてもらうつもりでおはじきを3つ手に取り、そのままポケットに入れて持ち帰ってしまいます。あやちゃんは気づいていません。友だちも両親もいない女の子は、おはじきを返さなくてはいけないと思いながら、なかなか返すことができずに葛藤し途方に暮れ、窓から見える柳の木に、心の内を相談します。柳の木は、お母さんのように女の子の心を優しく受け止め、包んでくれるのでした。女の子は柳の木の声に従い、柳の木の根もとに、おはじきと自分の心を埋めました。



結果的におはじきを返すことができなかつたので、「学校的にはアウトです」と以前言われたこともあり、長年封印していたお話でした。でも、このお話を聞いて、「人のものを盗っても返さなくていいのだと思う人は、いないのではないか?むしろ、なぜそうしてしまったかを考えることこそが大切なのではないか?」と思い、悩んだ末の選書でした。子どもたちは真剣に聴いて受け止め、考えていました。「女の子の心情がとても良く伝わってきた。良いお話だった。」など、子どもたちの感想を聞き、読んで良かったと思えました。

このお話は日常に潜んでいる何気ないいじめや差別、それを受けた子どもの心の動きについて私たちに優しく語りかけます。単純な善悪では分けられない、生きていく上で乗り越えていかなければならない様々な経験と葛藤、柳の木のような拠り所の存在の大切さなど、色々な思いを巡らせ、自ら考える機会になったら嬉しいです。静かに見守り、子どもたちに考える時間をくださった先生方に、感謝いたします。

